安曇野市
公民館報
No.68 [2023.6.21]
安曇野市中央公民館 ☎71-2466

・表紙「第 12 回安曇野市総合芸術展」…… p.1
・安曇野を知る1枚「めえめえ児山羊」の詩碑…… p.1
・公民館講座
（豊科・穂高・三郷・堀金・明科）…… p.2,3
・新任公民館長あいさつ…… p.2
・地区公民館だより「一日市場地区」…… p.4
・市公民館大会 …… p.4

第 12 回 安曇野市総合芸術展
3 月 9 日 ~17 日開催

安曇野市総合芸術展が 3 月 9 日から 17 日まで、豊科交流学習センター「きぼう」で開催された。各地域文化祭の出展作品から選ばれた絵画・水墨画・書道・写真・工芸・彫塑（ちょうそ）の 6 ジャンル 115 作品が展示され、期間中の 11・12 日にはあづみ野ビデオクラブのビデオ作品 23 点も会場内のブースで上映された。

期間中、市内外から昨年度より 160 人ほど多い 660 人余りの方が会場を訪れ、力強い書道や繊細なタッチの絵画、被写体の一瞬を見事にとらえた写真、細かな作業が施された工芸品などの素晴らしい作品を熱心に見入っていた。「市内に大勢の芸術家がいて頼もしい限りです」「自分も今やっていることに、またプラスしてがんばろうと思いました」などの感想が寄せられた。

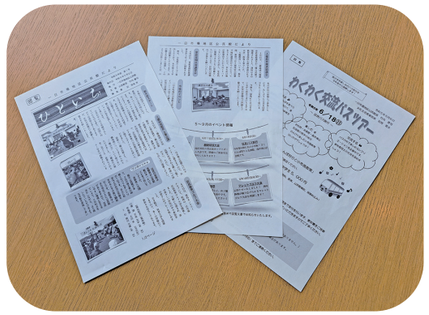
安曇野を知る１枚 「めえめえ児山羊（こやぎ）」の詩碑

童謡「めえめえ児山羊」の作詞者であり豊科新田出身の詩人藤森秀夫の詩碑が 1964 年（昭和 39 年）5 月に建てられた。その頃は豊科中学校の庭園の中にあったが、現在は安曇野市役所北側の武蔵野の小径にある。今年は童謡祭りの式典を碑の前で行い、藤森秀夫を偲んだ。隣接して豊科近代美術館とバラ園、豊科交流学習センターがある。

地区公民館だより 一日市場地区公民館（三郷）

一日市場区は、三郷地域の東部に位置し、上町・北町・本町・東村・見岳町の 5 地区からなる。JR 一日市場駅を有し、生活利便性が高いため年々新たな住宅地が増え、令和 5 年 4 月 1 日現在、1,503 世帯、3,686 人と三郷地域では世帯数、人口ともに最も多い地区となっている。

ここ数年、コロナ禍により多くの行事が中止・縮小され、生活様式の変化や行動様式の多様化が進んだことで、人と人とのつながりが薄れてしまっている。そこで、住民に身近な公民館活動の活性化による顔の見える関係づくりを取り戻そうと、年 5 回発行している地区公民館だより「ひといち」や行事のチラシをインパクトのあるものに変え、地区公民館の存在を再認識してもらうことから取り組んでいる。また、以前のように大勢の方に参加していただけるように、大人と子どもが一緒に楽しめる行事を中心に計画している。



全ての活動をコロナ禍前に戻すのは難しい状況ではあるが、幅広い年齢層の方が継続して参加できるように創意工夫を凝らした学びを提供していきたい。

【一日市場地区公民館長 竹内 斎司】

第 17 回公民館大会開催

5 月 21 日、第 17 回安曇野市公民館大会を豊科公民館ホールで開催し、関係者ら 200 人余りが参加した。大会は参加人数を昨年より約 90 人増やし、時間を通常に戻して行った。

開会式では、市公民館長会の藤松伸二郎会長が挨拶の中で、コロナ禍を乗り越えて今後活動する地区公民館への期待と地域課題の解決に立ち向かうための地域づくりの必要性について語った。続いて、公民館活動推進功労者表彰、地区公民館報表彰、事例発表、講演を行った。

▶公民館活動推進功労者表彰 松本正敏さん
▶地区公民館報表彰
最優秀賞 青木花見地区公民館
優 秀 賞 野沢地区公民館、荻原地区公民館
審査員特別賞 扇町地区公民館
▶事例発表
小田多井地区公民館 岩原孝直さん、杉原尚史さん
「With コロナ 集い・学び・つながる
小田多井地区公民館をめざして」の発表
▶講演「時代と地域をリードする
公民館活動の創造」

東北学院大学地域総合学部教授の原義彦先生が、具体的な数字や資料を基に、公民館の歴史・役割・理念・今後の方向性について話された。

老舗に学ぶ公民館の生き残り戦略として、公民館も「館訓」やモットーを持つこと、これからの地域づくりは、公民館の全ての活動を通じて住民とより良い関係を築くことであると語った。

４年ぶりに公民館活動も徐々に通常に戻りつつあります。事業を実施する時には、屋内外を問わず事故やけががないよう安全管理に十分注意しましょう。

編集後記

◆千葉からきて安曇野は公民館活動が盛んだと感心した。それはコロナ禍など何があっても工夫して続ける人たちがいるからだと知った。その情熱に拍手したい。 （Y・I）

◆ゴールデンウイークを迎えコロナ禍前の人出に戻った様子が報道されているが、結構なことである。このままコロナウイルスが拡散しないことを願うばかりである。 （H・M）

【公民館講座】

みさと

「笑門来福（しょうもんらいふく）」
～三郷寄席開催～

春の日差しが感じられた3月19日、三郷公民館は結成から17年目を迎えたまつかわ落語会「風まんだら」の皆さんによる三郷寄席を開催した。

冒頭で藤松伸二郎館長から「ひとときだが笑って幸せな気持ちになって欲しい」とあいさつがあり、この日は落語3題と色物で「なんきん玉すだれ」が披露された。

聴衆は、抑揚や声色を付けた流ちょうな話し手のテクニックに引きつけられ、時に笑い、時にしっとりと聞き入り、落ちがつくと盛大な拍手を送っていた。

聴衆からのアンケートでは、「毎年楽しみにしている」「久しぶりに生で聴くことができて良かった」「和やかで楽しい時間を過ごさせてもらった」などの感想が寄せられた。

出演者は「良いところで良い反応をもらい、また皆さんが聴くという気持ちで来ていただいていることが感じられ、本当にうれしく思う」と話した。

この三郷寄席は3年目の開催で、本年度も予定している。

なんきん玉すだれ

とよしな

「楽しい菊作り講座」

豊科公民館は4月21日に本講座の第1回目を開催した。講師は今年11年目を迎えた鈴木輝彦さん。

昨年までは、第1回目の講座は座学であったが、今年は摘芯と土づくりを実習中心で行った。

摘芯は、毎年何回か実習しているが、受講生にとっては難しい作業の一つである。特に今回は、初めて越冬苗の摘芯を行った。講座の初めの最も重要な作業のため、受講生の皆さんは食い入るように鈴木講師の手元を見つめていた。

摘芯作業

また、土づくりの実習では、鹿沼土、赤玉土、バーミキュライト、くん炭を等分に混ぜ合わせ一人10個以上のポリポットを作り作業は終了した。

本講座では、長年参加している先輩が仲間と連絡を取り合い、情報交換を続けている。そんな姿がこの講座の楽しさにつながっている。

ほりがね

地域物語「堀金のお宝発見講座」
～小田多井散歩・88体の石仏探勝～

堀金公民館は「ふるさと堀金を楽しむ会」と共催で本講座を5月14・15日に開催した。百瀬新治さん（前豊科郷土博物館館長）を講師に迎え「小田多井にある88体石仏の謎」をテーマに延べ57人が参加した。

堀金地域の南東部に位置し、三郷地域と境を接する小田多井地区は、今から千年以上前に大きな集落が存在したと伝わり、江戸時代には現在に繋がる村が再開発されたという。四国遍路88ヶ寺に因んだ石仏が作られ、同地区の何軒かの庭に祀られている。

石仏には番号の刻印があり、いにしえ人が、経済的にも肉体的にも過酷な四国遍路への憧れを果たす難しさから、身近な信仰の術として設置したものと思われる。友達に誘われ参加したと言う高橋八江子さんは「久しぶりの団体活動と大好きな石仏巡りができて楽しいときが過ごせた」と喜んでいた。

ほたか

文化講座「穂高の宝」
～小岩嶽城址を巡る～

穂高公民館は5月16日に『穂高の宝』の学習機会として本講座を開催した。

講師は市教育委員会文化課の逸見大悟さんと小岩嶽城址保存会の丸山茂さん。

小岩嶽城は戦国時代に北安曇に勢力を誇った仁科氏の一族古厩（ふるまや）氏または小岩氏の城と言われている。天文20年（1551年）10月に武田晴信（信玄）の軍勢により「宿城」と呼ばれる一帯が放火され、翌年8月の再攻撃で、城主が自害し、城兵500人以上が殺され、住民多数が捕らえられた。

詰城エリアは急峻で歩きにくいので、今回参加者25名は本城エリアを歩き、主郭の石積みや虎口（こぐち）、主郭跡、空堀、水の手など様々な山城施設や武田軍との戦いの戦死者供養塔などを案内された。

講師陣の詳しい説明と楽しい話に、一同大満足の3時間であった。

あかしな

「地場産ワインと地域食材を味わう会」

明科公民館は4月14日に本講座を開催した。参加者は20代から70代まで幅広い年齢層の20名。明科天王原産のワインは、スパークリングロゼ（アルモノワール）、赤（カベルネソーヴィニヨン）、白（シャルドネ）の3種類が提供された。

地元で活動する「明科いいまちつくろうかい！！」の皆さんが手作りした黒豆寿司・ニジマスの塩焼き・ピザ・野菜サラダなどの地元食材を使った料理を食べながら、和やかな雰囲気の中、ワインを楽しんだ。

途中、天王原でのワイン造りの過程が紹介された動画「天王原ワインストーリー」をみんなで鑑賞。その苦労と成功を知ることでワインの味はさらに格別のものとなった。

地元の人の手による、地元食材と、地元ワインのマリアージュ。明科のおいしさを満喫した会となった。今後も継続的な開催を予定している。

新任公民館長あいさつ

豊科公民館長　臼井　知（とも）

このたび、4月1日より豊科公民館長を務めております。

新型コロナウイルス感染症拡大により、縮小や中止を余儀なくされていた活動がたくさんありましたが、それも徐々に復活しつつあり、これからがんばっていこうと張り切っているところです。

実際にはコロナの影響で何年か行うことができずにいた行事も多く、その運営のノウハウも失われてしまっている場合もあり、なかなか元のように行うのは難しいところです。それでも以前行なわれていたことを大事にしながら、でもそれだけにとらわれることなく、これから先のことを考え、新しい発想も加えながらできることをできる方法でやっていく、新たな基盤となる大切な時期になると思います。地域の皆様のご意見をお聞きしたり、公民館職員みんなで考えたりしながら、できる限りのことをしていきたいと考えております。

いたらない点も多々あろうかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。